

あいに行く、NIKKO

「ガイドカード」に込めたNIKKO「愛」と魅力をガイドたちが語ります

くわしくは 観光課 観光交流推進係 ☎0288(2)5196



市ホームページ
「あいに行く、
NIKKO」

「あいに行く、NIKKO」って?

「あいに行く、NIKKO」は、市が組織・運営する「日光市観光推進協議会・ガイド部会」の構成団体の中から有志が集まり、それぞれ活動するフィールドの枠を超えて、ツアーの情報発信や日光の楽しみ方を紹介する取り組みです。

「ガイドカード」配布中!

実行委員会では、令和3年度に「ガイドカード」を作成しました。これは、市内で活躍するガイドたちの魅力を知ってもらうこと、そして、「ガイドたちだからこそ知っている日光の魅力」を皆さんにも伝えたい! という思いと「愛」を込めて作ったものです。

今回から全3回にわたって、ガイドたちの日光「愛」や裏話などを、語り尽くします! すでにカード化されたガイドはもちろん、まだ紹介されていないガイドも「もしカード化されるなら」と想定し、登場します(今後、カード化される可能性もあります)。

市内のガイドたちの魅力、日光市の魅力を改めてお楽しみください!

なお、ガイドカードは現在23種類あり、それぞれのガイド団体に配布しています。今後も、種類を追加予定ですので、お楽しみに! (カードは、なくなり次第終了です)

また、参加団体の情報や、これまでの取り組みを市ホームページで紹介しています。ぜひご覧ください。

(表面)

- 三種のカラーデザイン
- まち歩き → ピンク
 - ネイチャー → 黄緑
 - アクティビティ → 水色

(裏面)

ガイドだからこそ知っているとおきの場所や瞬間など「わたしがあいする日光」について紹介!



NATURE



MACHI

ACTIVITY





栃木県立日光自然博物館

もりたたかみち

森田孝道さん

ガイド歴20年



森田孝道 (もりたさん)

得意技 **ザ・セイフティ**

日光の山や森をこよなく愛する登山ガイド、自然から歴史まで幅広く楽しみをお伝えしています。

登山力 3000 下山力 5000 山頂力 9000



わたしが愛する日光 **厳冬の奥日光**

冬の奥日光は、白い雪と青空、そして氷のアイスブルーで彩られます。「何もない」と言われる奥日光、奥日光の自然の魅力が詰まっています。

「体験できる事」 登山やトレッキング、植雪
「好きなもの」 霧雪期の山からの景色
「一番の難」 山は逃げない

ガイドになったばかりの頃の私は、日光生まれとはいえ、男体山に登ったことも、戦場ヶ原のハイキング経験もなく、花も鳥も木も何も知りませんでした。そんなある日、私が登山道についてわからないことに腹を立てたお客さんに電話を突然切られ、「よし、とにかく何でも自分で見てみよう！」と発奮したのが今につながります。

「わたしが愛する日光」は厳冬期の奥日光です。あらゆるものが凍り付き、何もないといわれる厳冬期。奥日光の魅力は、この季節を抜きには語れません。キンと冷えた空気、静まり返った森。真っ白な雪と深く青い空と湖。雪は時間や光の具合で色が変わったり、青く透けたり朝日や夕日に赤く染まったりと、この季節ならではの彩りを見せてくれます。生き物の気配がないようでも、雪面にはキツネやウサギなどの足跡がたくさん見られます。

その後を追うように、私たちはスノーシューやスキーで進みます。柔らかいパウダースノーを踏み音もなく移動する体験は、言葉では言い表せません。降り積もった雪はいずれ水となり、たくさん植物や動物、そして私たちが潤してくれます。春咲く花も、圧倒される紅葉も、この厳しい季節があるから存在できるのだと強く感じます。

「日光の奥深い歴史と大自然」という言葉がありますが、どう奥深いのか、自然の価値とは何なのか、お客さまにそれを具体的に伝えるため、試行錯誤する毎日です。

ガイドに限らず、皆さんも自分が感じる日光の良さや価値を伝えることができると思います。日々の景色、参加している行事、生活のこと、それらが実は「日光の奥深い歴史と大自然」を形作る一つなのです。あなたの大切な日光のこと、一緒に学び伝えませんか。



Ametsuchi

ほしのあきひろ

星野晃宏さん

ガイド歴3年



星野晃宏 (ホッシー)

得意技 **水中の魚を掴むこと**

ガイドの傍ら、日光唯一のアウトドアショップ「Ametsuchi」の店主でもある。そのためアウトドア(道具)の知識はピカイチ。

魚釣り力 2525 | 登山力 2500 | 山頂力 25



わたしが愛する日光 **新緑の湯川**

長いながみけ、命が一緒に呼吸する新緑の湯川が大好きです。水と緑が織りなす生命感溢れる風景は、何度見ても幸福感で満たされます。

「体験できる事」 フィッシング・スノーシュー
「好きなもの」 鮎トシ
「一番の難」 上を見て生き、下を見て暮らせ

私がガイドを始めたきっかけは、前職時代の体験です。大学卒業後に都内のアウトドアメーカーに就職し、その後Uターンで地元・日光に戻りました。それから約10年ほど、市役所の職員として国内外の方に日光を訪れていただくためのプロモーションなどの観光行政に携わらせていただきました。

そうした仕事の中で、日光の歴史や多岐に渡る観光資源には日光国立公園をはじめとする美しい自然が根底にあるということとをさまざまな場面で学びました。次第に私は、自分でこの美しい自然と人をつなぐ仕事がしたい。日光の自然を通して訪れてくれた人が豊かな気持ちになったり、一緒に日光の自然を大切に思ってくれたりする「日光のファン」を増やす仕事がしたいと思いを募らせるようになりました。

元々幼少期から日光でアウトドアを楽しんでいた私は、同じくアウトドア

が大好きな妻とアウトドアガイドとして日光で活動しよう決めました。

「わたしが愛する日光」は新緑の湯川です。普段私は湯川で釣りのガイド、特にフライフィッシングという種類の釣りをガイドすることが多いのですが、実は湯川は日本のフライフィッシング発祥の地。フライフィッシングは元タイギリス発祥ですが、明治時代に奥日光にある英国大使館関係者によって日本に持ち込まれました。当時フライフィッシングをするために湯川に鱒が放たれ、その鱒たちは脈々と命をつないでいます。特に湯川・湯ノ湖は川の宝石と呼ばれるブルックトラウト(カワマス)という美しい鱒を釣ることのできる日本でも数少ないフィールドです。そんな日光の知られざる歴史を感じながら、市民の方にも美しい湯川でフライフィッシングにチャレンジしていただけたらうれしいです。